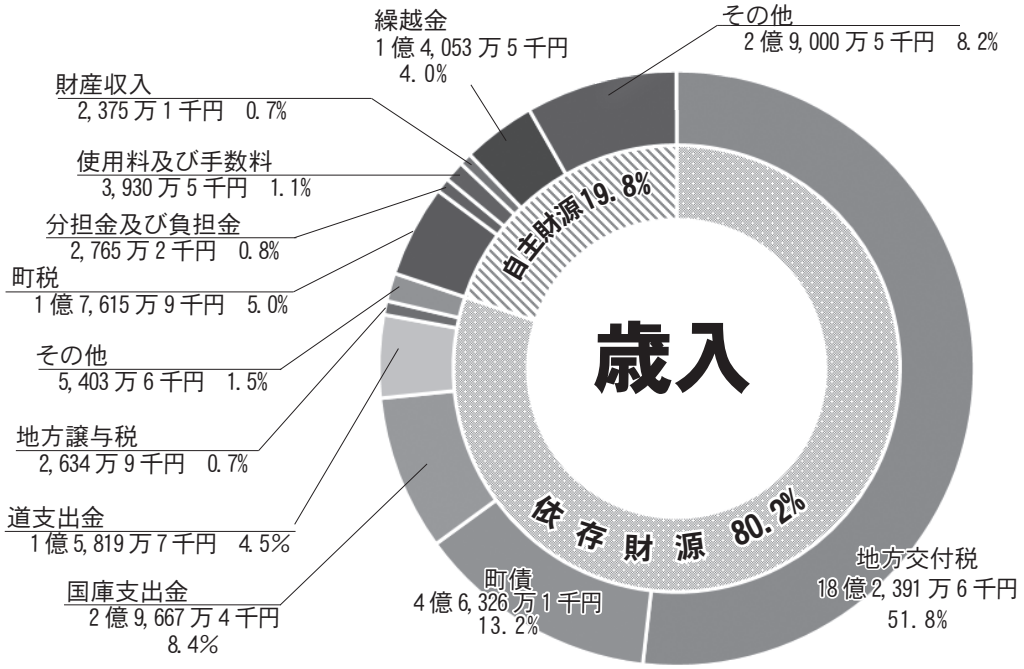
令和5年度各会計決算から見る まちの財政

一般会計

歳入決算額　35億1,983万9千円（対前年度 1億8,079万3千円 増）



令和5年度の各会計歳入歳出決算が、9月24日招集の第3回町議会定例会で認定されました。

町の財政「台所事情」の現状についてお知らせします。

歳入財源の80%を国等に依存

町税収入1億8千万円（5.0%）

令和5年度一般会計及び特別会計の**歳入総額は41億2,966万4千円**（前年度比2億6,058万円、6.7%増）、**歳出総額は40億13万7千円**（前年度比2億7,158万7千円、7.3%増）、**差引1億2,952万7千円**で、翌年度に繰り越して実施する特定事業の財源を除いた実質収支は1億1,376万円でしたが、実質単年度収支でみると278万4千円の赤字となっています。

また、一般会計歳入額の約80%が、地方交付税など国等からの依存財源であり、町税収入は、わずか5%にとどまっています。

特別会計への赤字補填 7,200万円超

一般会計の財政運営を圧迫

一般会計歳出額では、高齢者福祉施設改修工事、積丹町クリーンセンター改修工事の着工をはじめとする投資的経費の増額などにより令和4年度と比較して2億767万円の増となりました。

また、特別会計全体では、赤字の発生・累積化を回避するため、一般会計から総額7,218万6千円を繰り入れて赤字を補填している状況にあり、依然として一般会計の財政運営に大きな影響を及ぼしています。

町税・使用料等の滞納は行政サービスの維持を困難に！

町の厳しい財政構造や限られた歳入財源で、「**健全財政の維持**」、「**公共行政サービスの維持向上**」、「**地域の活性化**」という3つの町の課題の克服と両立を図っていくためには、町の台所の重要性に対する町民の皆さんの理解と認識の共有が大切です。

特に、**国保税や町営住宅使用料、水道使用料等の滞納による収納率の低下**は、冬の除排雪や医療保険、ゴミ収集、水道水の安定供給など身近な公共行政サービスの水準維持を困難にし、私たちの日常生活に大きな影響を及ぼします。

町民の皆さんの納期内完納にご理解とご協力をお願いします。

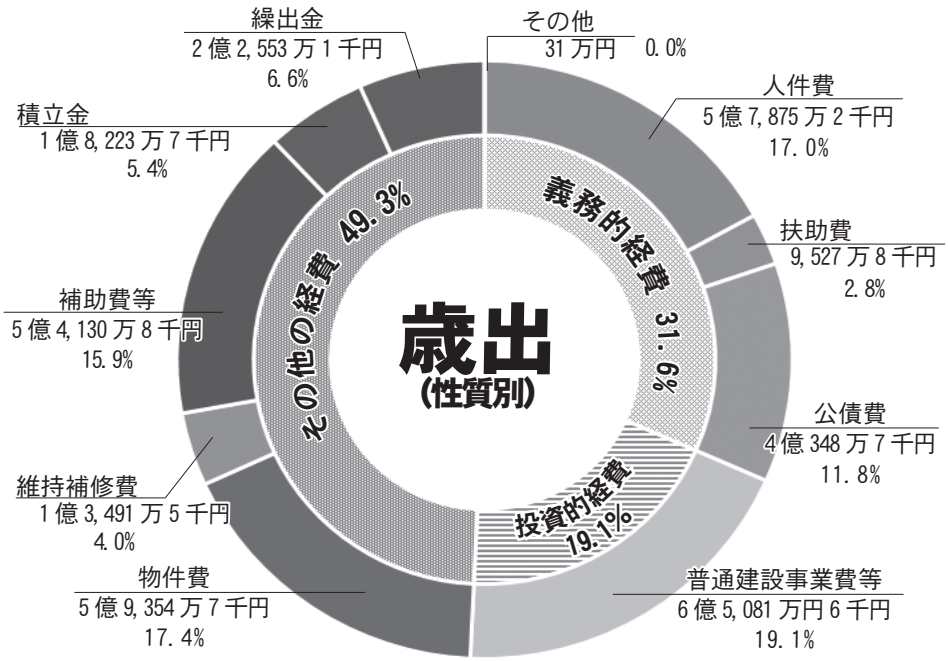
一般会計

歳出決算額　34億618万1千円（対前年度 2億767万円 増）

歳出（目的別）

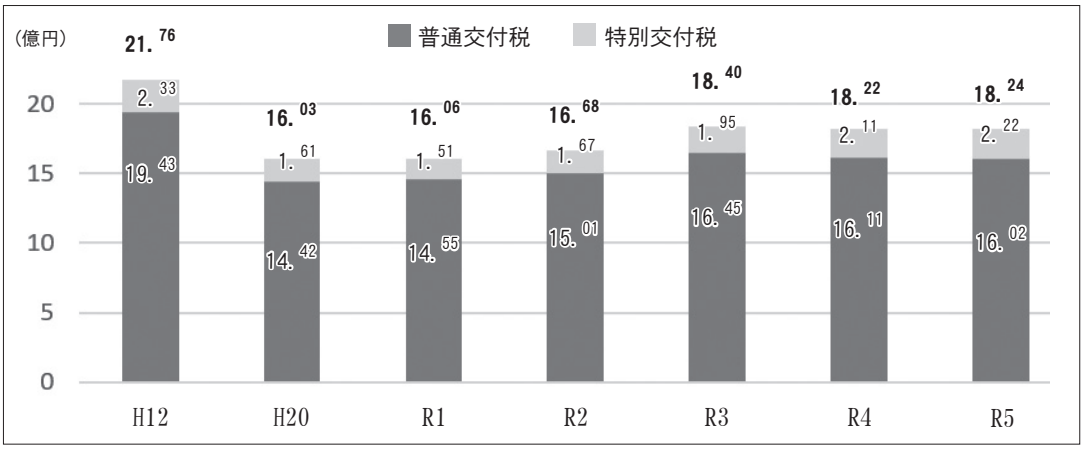
（千円）

区　分	歳出額	構成比
議　会　費	58,866	1.7%
総　務　費	1,104,894	32.4%
民　生　費	421,586	12.4%
衛　生　費	234,806	6.9%
農林水産業費	208,775	6.1%
商　工　費	114,458	3.4%
土　木　費	324,823	9.5%
消　防　費	272,783	8.0%
教　育　費	250,419	7.4%
公　債　費	403,487	11.8%
そ　の　他	11,284	0.3%
合　計	3,406,181	100%



計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

■ 地方交付税の推移



■ 地方交付税の使いみち

（百万円）

	地方交付税	比較	主な使途経費（①+②+③+④+⑤）	過不足額
R４	1,822	＜	1,863	△41
R５	1,824	＜	1,844	△20
R６（予算）	1,828	＞	1,821	7

積丹町の歳入財源の最も大きい地方交付税（51.8%）の使途は、①人件費、②扶助費（医療費等）、③公債費（借入金償還費）、④補助費等（消防組合の負担金等）、⑤特別会計繰出金などの義務的・固定的な支出だけで占められ、なお財源が不足している財政構造です。

監査委員の各会計決算審査結果

審査に付された一般会計、特別会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、関係法令に準拠して作成されており、決算係数は関係帳簿及び証拠書類と照合した結果、誤りのないものと認められた。

また、予算の執行及び関連する事務の処理は、適正に行われているものと認められる。

代表監査委員　山田　文雄
監査委員　笹山　義治

特 別 会 計

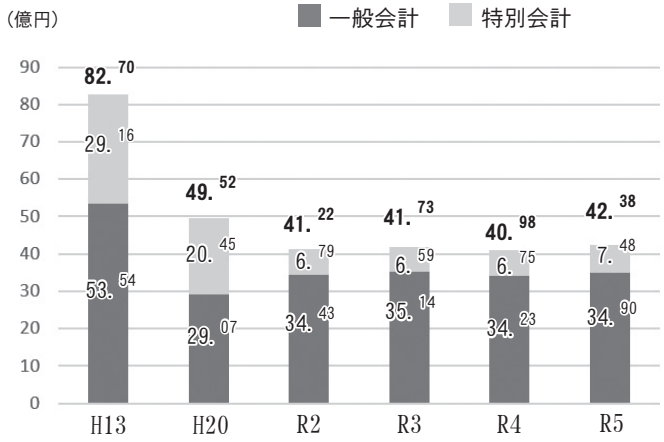
歳入歳出決算額

会計名		歳入決算額	一般会計からの繰入金（内 基準外繰入金）		歳出決算額
簡易水道事業		1億7,294万3千円	2,348万7千円	（0円）	1億6,865万1千円
国民健康保険事業	事業勘定	1億2,690万0千円	2,926万8千円	（0円）	1億2,579万5千円
	直診勘定	1億　313万7千円	2,780万1千円	（2,026万9千円）	1億　313万7千円
下水道事業		1億1,960万4千円	4,503万6千円	（2,497万0千円）	1億　913万4千円
介護福祉サービス事業		4,461万0千円	2,718万1千円	（2,694万7千円）	4,461万0千円
後期高齢者医療		4,263万0千円	1,608万4千円	（0円）	4,263万0千円
合計		6億　982万4千円	1億6,885万8千円	（7,218万6千円）	5億9,395万6千円

計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

まちの借金（地方債）と貯金（基金）の現状は？

■ 地方債残高の推移



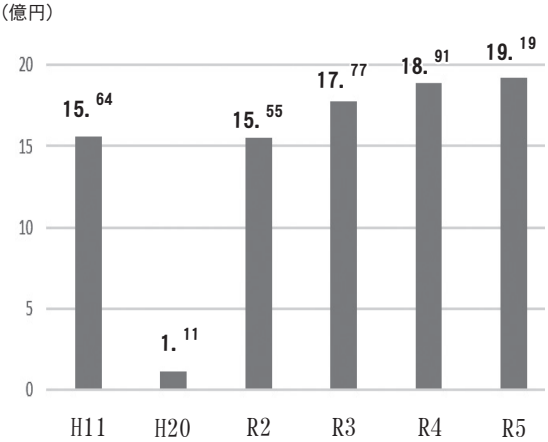
R5 地方債活用事業の一例

■積丹町生活交通バス購入事業（しゃこバス購入）

総事業費：559万円

うち過疎対策事業債：500万円

■ 基金積立金の推移



令和５年度は、減債基金に1億3,925万円、ふるさと振興基金3,089万円など合計1億9,556万円を積立て、ふるさと振興基金などから1億6,711万円取崩しを行い、全18基金の総保有残額は19億1,943万円です。

【基金残高の内訳】

1位 減債基金　6億8,602万円
2位 備考資金　4億256万円
3位 財政調整基金　3億58万円
4位 ふるさと振興基金　1億7,114万円
5位 公用及び公共用施設整備基金　8,410万円
6位 土地開発基金　7,730万円

（注）全18基金

（注）・備荒資金4億256万円と土地開発基金7,730万円を含む。
・ふるさと振興基金の積立額は、ふるさと納税寄附金から返礼品等経費を差し引いた残額が主なものです。